

# 平成26年度事業計画書・収支予算書

自 平成26年4月1日  
至 平成27年3月31日

一般財団法人日本色彩研究所

# I 事業計画書

## 1. 本年度は以下の研究を実施する（詳細を4.資料に示す）

- (1) 白色光源の演色性評価方法の開発
- (2) Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発
- (3) 詳細版ヒュートーンシステムによる各種ツールの制作
- (4) 薬剤注入器の色彩使用による誤選択防止に関する研究
- (5) 小中学生における嗜好色と好まれる色のイメージに関する研究
- (6) CG による製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究 2
- (7) メイクカラーの動向に関する調査

上記の研究成果は、所内研究発表会を開催して報告する。

## 2. 本年度は以下の事業を実施する

### (1) 産業界、教育界との協力

官公庁、教育界、産業界からの受託研究業務として、次の事業を実施する。

- (a) 標準化事業：JIS 準拠標準色票第9版の第2刷及び変退色・汚染用グレースケールを製作する。また、Hue-Tone システムによる色票集の開発を進める。
- (b) 調査研究：各種製品色の提案、色彩調査を実施する。
- (c) 技術指導：色彩の産業応用に関する技術指導及び製品開発の指導・監修を実施する。また、色彩教育用教材などの色彩用具・資料の開発を進める。
- (d) 測色試験：標準白色板の校正試験等依頼試験を実施する。
- (e) 講座会：定期開催の色研セミナー(2.参照)及び企業への講師派遣を実施する。
- (f) 色票依頼：各種用途の色票製作を実施する。

なお、(a)～(e)の事業は、公益目的支出計画の継続事業として実施する。

### (2) 講習会、色彩講座の開催

定期開催の色研セミナーとして、下記の専門講座を開催する。

色彩指導者養成講座（第35期）	1回
色彩管理士認定講座（第9期）	1回
色彩心理、カラーデザイン関連講座	5回
景観色彩計画関連講座	1回
色彩工学・技術関連講座	6回

### (3) 定期刊行物及び広報等の活動

機関誌「色彩研究」Vol.60 No.2、Vol.61 No.1の発行

広報誌「COLOR」No.162、No.163の発行

メールマガジンの発行

ホームページ <http://www.jcri.jp/> 更新年 4 回程度を予定

(4) 学会及び論文発表

当研究所紀要のほか、日本色彩学会、照明学会、日本人間工学会、日本デザイン学会、日本建築学会、日本心理学会、日本プラント・ヒューマンファクター学会、人類働態学会などでの論文投稿、大会発表を積極的に進める。

3. 処務関係

本年度は以下の会合を予定している。

(1) 評議員会 1 回開催

(2) 理事会 3 回開催

#### 4. 資料 (研究項目概要)

##### (1) 研究項目 白色光源の演色性評価方法の開発

主任研究員 小林信治、那須野信行

研究着手年月日 平成23年4月1日

協力機関 CIE TC 1-90

白熱電球や蛍光灯と置き換えるLED光源の実用化に伴って、その性能評価方法が検討されている。蛍光灯とは異なった分光特性を持っているLED光源の演色性は、CIE 13.2 (JIS Z 8726) で規定されている忠実性に基づく演色評価数で評価することが適切でないという意見があり、CIE-TC 1-90では、白色LED光源を含めた新しい演色性評価方法の開発を進めている。TC-1-90では、忠実性に基づいた演色性の評価実験を計画している。この評価実験に参画し、忠実性に基づいた演色性評価方法の国際標準化を進める。

##### (2) 研究項目 Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発

主任研究員 小林信治

研究着手年月日 平成 24 年 4 月 1 日

Hue-Tone システムとして普及している PCCS は、200 色程度までの色票集が利用されている。しかし、色彩設計の実務家からは色数が少ないという指摘を受けている。そこで、色知覚モデルを用いて Tone の心理物理的特性を明らかにし、Tone を細分化して基準値を設定する客観的な設定方法を開発した。昨年度は特許 1 件が成立した。更に 2 件の特許申請するための検討を進める。

##### (3) 研究項目 詳細版ヒュートーンシステムによる各種ツールの制作

主任研究員 赤木重文

研究着手年月日 平成 26 年 4 月 1 日

協力機関 株式会社中川ケミカル

一昨年度は、詳細版ヒュートーンシステム NOCS (仮称) についてそのアルゴリズムを確立したが、昨年度は実用的なツールを試作し、企業モニターなどによる評価を行い、製品化の構想を進めた。今年度は、カラーチャート色票版、カラーチャートデジタル版、デジタル版カラーパレット、デジタル版色彩情報検索システムの実用化を図る。

##### (4) 研究項目 薬剤注入器の色彩使用による誤選択防止に関する研究

主任研究員 名取和幸

研究着手年月日 平成 26 年 4 月 1 日

協力機関 新潟薬科大学

糖尿病の薬物療法では、同一の患者が即効型と持続型の 2 種の薬剤を使い分け、自ら注射することが一般的である。その結果、薬局や病棟での交付ミス、使用者による取り違えが生じることもあり、各社は注入ボタンの凹凸を変えたり、本体やラベルの色で識別しやすくするなどの対策をとっている。しかしながら新しいタイプの薬剤には識別色についての規定がなく、メーカー間で異なる色が使われている。また、同じ人が異なるメーカーの

注入器を同時に使用することもあり、安全性を高めるためのさらなる検討が必要とされる。前年度は各社の注入器の識別性を実験により検討し、各社の問題点と識別性向上の方法を述べた。本年度は、即効（短時間で強く）と持続（おだやかにゆっくり）という薬の効き方の印象に適合する色彩を調査から求め、2種の薬剤注入器の同定性を向上させるための提案を行う。

#### **(5) 研究項目 小中学生における嗜好色と好まれる色のイメージに関する研究**

主任研究員 名取和幸

研究着手年月日 平成 26 年 4 月 1 日

当研究所は、2009 年及び 2011 年に全国の小中学生を対象に色と配色に関する嗜好調査を実施した。最初の調査から 5 年経ったこともあり、子どもたちの色彩嗜好の安定した側面と変化を探るために、再度、調査を実施する予定である。また今回の調査では、過去の調査で好まれやすい色として挙げられた男子では金と黒、女子ではピンクと水色について、それぞれがどのような印象をもたれているかの質問を加える。そして、特に女子において、年齢により嗜好の変化がみられたピンクと水色へのイメージが、小学校から中学にかけてどのように変化するのかを検討し、また 3 回分の調査データを総合し、現代日本の子どもたちの色彩嗜好の傾向を明らかにする。

#### **(6) 研究項目 CG による製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究 2**

主任研究員 江森敏夫

研究着手年月日 平成 26 年 4 月 1 日

企業の海外進出が一層強まる中、海外での色やデザインに関する消費者意識や生活習慣の入手と交差的文化的な分析は、学問的にも実務的にも重要性が増している。そこで、市場や生産拠点として重要視されている国々を対象とし、色やデザインに関する人々の意識や市場の傾向などの研究を進めることにする。今年度は、日本への留学生に対して、色使いについての自国と日本との相違、自国での色に関する慣習などについて聴き取り調査を行う。また、そうしたテーマに関係する文献・資料も収集し整理する。それらの結果も参考に調査項目を検討し、色彩好悪等についての海外調査の実施を目指す。

#### **(7) 研究項目 メイクカラーの動向に関する調査**

主任研究員 赤木啓子

研究着手年月日 平成 26 年 4 月 1 日

協力機関 一般社団法人日本流行色協会

2009 年から毎年 1 回の割合で、日本人の大学生から 60 歳代女性を対象に、メイクで使用するカラーの動向を日本流行色協会と共同で実施している。本年度は、調査開始から 5 年目を迎えるため、5 年間のメイクカラーの変遷、社会動向との関係について俯瞰的にとりまとめる。